

支 援 事 業
報 告 集



愛芸アシスト基金

2019
年度

2019年度 愛芸アシスト基金 支援事業日程表

ご賛同いただいた皆様へ

日頃は愛芸アシスト基金にご支援を賜り、まことにありがとうございます。また本学の
展覧会や演奏会にも足をお運びいただき、心より御礼申し上げます。

本学は、半世紀にわたりこの中部、東海地域の芸術文化の発展に寄与すべく尽力して
まいりました。これまで美術・音楽の両分野より、芸術家・研究者・教育者等、日本のみならず
世界で活躍する卒業生を輩出しております。これも、県民の皆様や地域の皆様、なによりこの
愛芸アシスト基金にご賛同をいただきました皆様のご理解があつてのことと考えます。

本学はこれからも、将来の芸術文化を担う人材を育成すると同時に、大学自らも芸術
活動を通して地域に貢献していく所存です。今後とも皆様に愛される大学となるよう、一
層の努力をしております。変わらぬご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、自制と忍耐が求められる日々が続いております。
どうかくれぐれもご自愛ください。

愛知県立芸術大学
学長 戸山 俊樹



01 オペラ公演 歌劇《いつわりの女庭師》

令和元年12月7日(土)、8日(日)

長久手市文化の家

令和元年12月14日(土)

パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)

02 愛・知・芸術のもりから

令和元年7月～令和2年3月 計5回

SMBCパーク栄

03 収蔵品展

令和元年5月14日(火)～6月5日(水)

愛知県立芸術大学 芸術資料館

04 愛知県立芸術大学サテライトギャラリーSA・KURAでの展覧会支援

令和元年6月～令和2年3月 展覧会開催回数:9回

愛知県立芸術大学サテライトギャラリーSA・KURA

05 学生企画の支援

平成31年4月～令和2年3月

4件(美術学部・美術研究科2件、音楽学部・音楽研究科2件)

06 あいちアール・ブリュット障害者アーツ展でのコンサート

令和元年9月12日(木)・13日(金)

名古屋市東文化小劇場

01 オペラ公演 歌劇《いつわりの女庭師》



2019年度の愛知県立芸術大学オペラは、モーツァルト18歳の時の意欲作、《いつわりの女庭師》を公演しました。公演は長久手市文化の家とパティオ池鯉鮒で行われました。

舞台美術デザインを担当したのは、大学院美術研究科の「複合芸術研究」(オペラ)の学生と教員。装飾を施した複数のワゴンを巧みに配置し、市長邸の庭園、森の中や裁判のシーンなどを構成しました。

大学院音楽研究科の「オペラ総合演習」の教員であり、近年、藤原歌劇団公演や東京芸術劇場コンサートオペラ等で指揮を務める佐藤正浩の指揮、全国各地でオペラ公演の演出を務める飯塚励生による演出、履修学生によるキャストとしての演唱や稽古ピアニストとしての働き、本学管弦楽団、合唱団、学生スタッフ等々多くの力が結集。客席からの笑い、盛大な拍手やブラボーの掛け声が公演の成功を物語っていました。

2020年度の大学オペラは、本学ではおなじみ、モーツァルトの《コジ・ファン・トゥッテ》を上演します。今後とも大学オペラの応援、変わらぬご支援をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

初鹿野 剛(大学オペラ制作責任者)



02 愛・知・芸術のもりから



「愛・知・芸術のもりから」は、愛芸アシスト基金のご支援のもと、2019年度で10年目を迎えることができました。名古屋の中心に位置するSMBCパーク栄でのこのレクチャーコンサートは、各専攻・コースから選ばれた優秀な本学卒業生・修了生たちが音楽を発信する舞台となっています。若い彼らは、すでに各地で活躍している魅力ある演奏家たちばかりですが、このコンサートは、彼らの飛躍のきっかけとなるとともに愛知芸大の素晴らしさを広く知っていただける絶好の機会となっております。

2019年度は、ピアノ、弦楽器、管打楽器の卒業生・修了生から計5グループが出演しましたが、毎回満席に近いお客様にお楽しみいただきました。今後とも皆様の温かいご支援をいただきますよう、よろしく願い申し上げます。

福本 泰之(音楽学部長兼研究科長)

03 収蔵品展



芸術資料館収蔵品展 「全部見せます!!愛知芸大の器」 「平成30年度新収蔵品展」

本学陶磁専攻は、2019年に開設から30周年を迎えました。卒業生は学部生、院生合わせて370人を超え、その中でも優秀な学生の作品を選定し収蔵しています。また、本学では、教育に資することを目的とし、国内外を問わず、多様な陶磁器作品を蒐集してきました。本展覧会は、これらの多様な作品を一堂に会することで、陶磁専攻の軌跡を感じると共に、これからの人材を育成する器としての陶磁専攻をご覧いただける機会となりました。会期中は多くの来館者に恵まれ、新聞やラジオ等、多数のメディアにも取り上げていただきました。

同時開催として、「平成30年度新収蔵品展」を開催しました。平成30年度は、本学的设计に携わった吉村順三氏の創立当時の図面、本学卒業生でもあり平成29年度の芸術選奨・文部科学大臣賞を受賞した杉戸洋氏の《最初の塔 Troedsson Villa》を教育参考品として新たに収蔵し、また、彫刻専攻の教員でもあった山本豊市氏の彫刻やデッサンを寄贈していただきました。

展覧会関連事業の芸術講座では、陶磁専攻の梅本孝征教授、長井千春教授をお招きし、「陶磁専攻30年の軌跡」を開催しました。ご来場の方々には展示作品をご覧いただきながら、当時の思い出や、卒業生のその後の活躍など、本学で



長年教鞭を執っていらっしゃるお二人ならではの貴重なお話で、大変盛況な講座となりました。

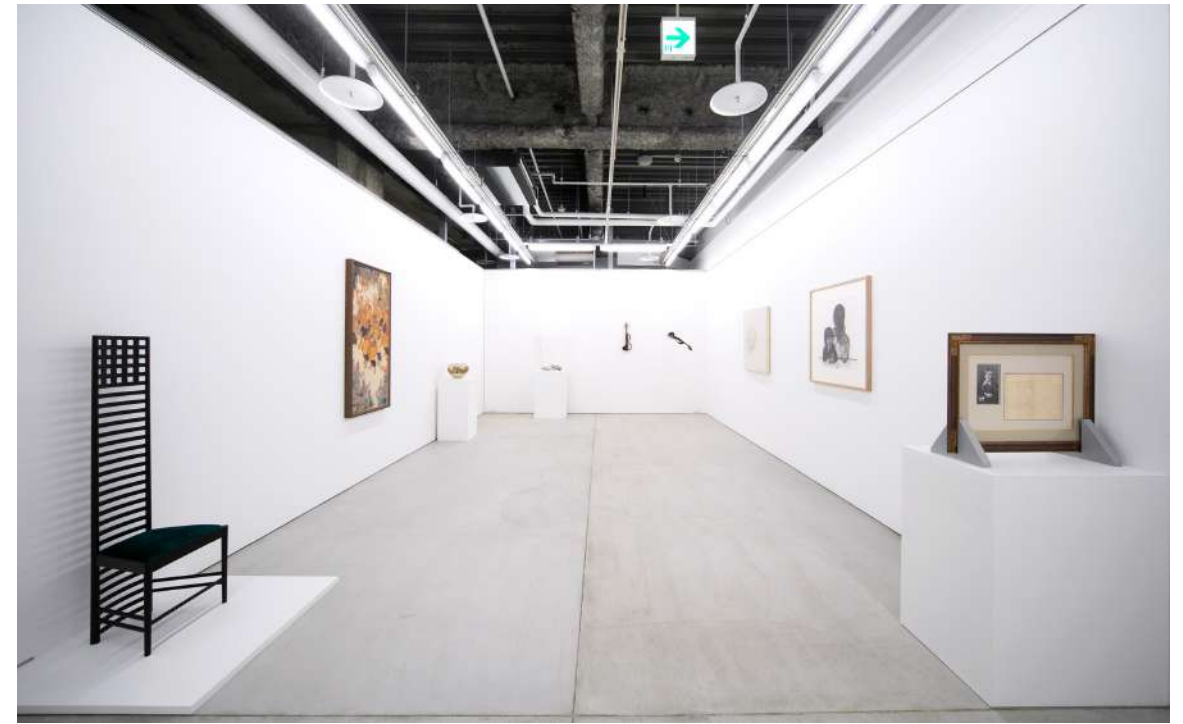
愛芸アシスト基金会員の皆様には、芸術資料館収蔵品展にご支援いただき、ありがとうございました。心より御礼申し上げます。

今後も、本学のコレクションを中心として、魅力ある展覧会を開催しますので、変わらぬご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

関口 敦仁(芸術資料館長)



04 愛知県立芸術大学サテライトギャラリーSA・KURAでの展覧会支援



サテライトギャラリーSA・KURAの開廊に寄せて

2019年6月、愛知県美術館に隣接した名古屋市東桜に、サテライトギャラリーSA・KURAが開廊されました。これは、本学の優れた研究や教育の成果を、展覧会や発表を通して、芸術・教育関係者はさることながら、広く一般にもアピールする新たな大学の発信拠点として位置付けられたものです。開廊記念として、藤田嗣治や横山大観などの本学の優れた収蔵作品と将来を担う美術学部の若手・中堅教員による合同企画展示「RANGE=ここから・これから」が開催されました。オープニングレセプションをはじめ会期中には、多くの美術関係者など多数の鑑賞者が訪れ、白を基調にした使いやすく洗練された空間とともに、大学の研究成果や教育環境の質の高さを内外に周知できたと考えています。今後も、本学の優れた専門性をアピールできる効果的な企画、国際交流事業や他の研究機関等と連携した展示にも積極的に取り組んでいく予定です。どうぞご期待ください。

また、ギャラリー名であるSA・KURAは、日本人に親しみやすい「桜」や地名である東桜の一文字を入れることで、地域や社会と連携しながら、大学の資産である作品や研究が収蔵されている「蔵」を出発点に、未来に向けて開花し羽ばたいていく意図が込められています。

このギャラリー開設に尽力いただいた全ての方々に、この場を借りて心より感謝申し上げます。

倉地 久(美術学部長兼研究科長)



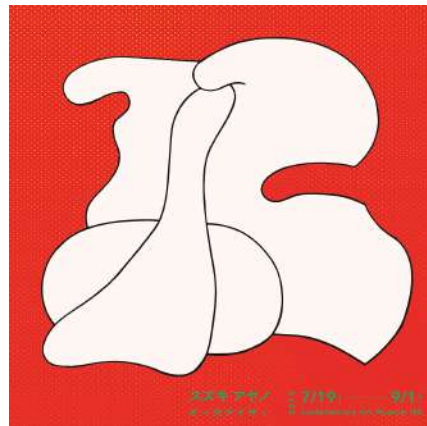
撮影：園田加奈





＜鈴木彩乃個展 スズキアヤノ オーガナイザー＞
 事業名:鈴木彩乃個展 スズキアヤノ オーガナイザー
 報告者:鈴木 彩乃(美術研究科博士前期課程 油画・版画領域)

三重県伊勢市にある伊勢現代美術館にて2019年7月19日～9月1日に個展を開催いたしました。伊勢現代美術館の館長の方に本学での卒業制作展で作品を拝見していただいたことをきっかけに、個展の開催が決定いたしました。今回は大学院入学から描きためた6点の作品を展示いたしました。自身の初めての個展の開催であり、展示内容、作品、運搬、広報物の企画を行いました。広報物では本学のデザイン科の学生と協力し、デザインすることによって、より一層こだわりの持って完成させることができました。また、大学院の卒業制作展に向けて一から自身の作品を客観視すること、鑑賞者の意見が聞ける場を設けることで、今後の制作に役立たせることを目標としました。会場には遠方にも関わらず、多くの方が足を運んでくださり、個展を通してこれらの課題や可能性について気がつくことができました。今回、こうして個展が無事開催されたことは、愛芸アシストの支援があったことであり、大変喜ばしく、感謝しております。また、協力してくださった皆様、個展にお越しくくださった皆様に、心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。



＜テレパシー英会話教室＞
 事業名:テレパシー英会話教室
 報告者:谷崎 壮太郎(美術研究科博士前期課程 彫刻領域)

令和元年12月5日～11日にDESIGN FESTA GALLERY 原宿にて谷崎壮太郎と木村友南による2人展、「テレパシー英会話教室」を開催しました。

今回は少し奇をてらったような展示タイトルを決めたところからはじめましたが、未来のコミュニケーションについて考えるというテーマで展示を行いました。普段は愛知と神戸という別々の場所で活動する二人が、7月頃から対話を繰り返し、コンセプトを練り上げました。それぞれがコミュニケーションについての作品を作り、一つの展示室に持ち込み、展示する。その過程及び結果としてできた展示もまた一つのコミュニケーションとして成立することを目的としました。

コミュニケーションというテーマに対してどういったアプローチをするかは二人とも異なっており、二人がそれぞれ持つ作家としての個性をベースに、多様な作品が集まりました。作品の特性を活かした展示構成をその場で考えて配置しライブ感を出すことで、生の会話が現在進行形で行われているような空間を生み出しました。両者の作品を絡ませて、作品ごとのコンセプトにはない新たなストーリーを生み出したり、展示自体の独特な雰囲気を強めたりと一人の作品では出せないものを生み出す経験ができました。作品に絶えずリピート再生され続ける映像作品や文字をテーマにした作品があることで、より展示の世界に観客を引き込めたと感じました。



また、この展示のテーマから最新の都市であり続ける東京での展示を行うべきだと考え、修了に向けて忙しい時期でありながら、遠方での展示を決定しました。ギャラリーのある土地柄、普段から美術やアートの展示を見に行ったりしない方々や、外国人観光客の方々にもご覧いただき、多種多様なコメントをいただきました。

初めての東京の展示で多くのことを学びました。移動費や搬送費などに費用がかかってしまうので、愛芸アシストによるサポートは大変助かりました。この経験を今後の活動にも活かせるよう、精進してまいります。





＜Breaking Borders第2回公演
—音楽×美術×舞×ある女の子の一生
—常識外れの新感覚コンサート＞

事業名: Breaking Borders
代表者: 中村 咲希 (音楽学部 作曲専攻 作曲コース)
報告者: 篠崎 由佳 (美術研究科博士前期課程 油画・版画領域)

この度は愛芸アシスト基金のご支援により、長久手市文化の家、風のホールにてBreaking Bordersは第2回公演を開催することが出来ました。私達Breaking Bordersは、音楽・美術の境界線がなくなり、共生し、通い合う様な作品を届けたいという思いから結成したプロジェクトです。そのため、テーマや内容をゼロから考え、自分たちの限界を問いながら作りました。

今回10月9日に行ったコンサートは、音楽×美術×踊り×物語の4要素で構成し、1人の女の子の一生から音楽史を一覧できる内容となっています。

オノマトペの即興音楽『びちゃびちゃ』では、女の子と原始人が出会い、原始時代へタイムスリップをする場面から始まります。鹿の角や竹を楽器の素材とした即興音楽、クラシック音楽の起源である『グレゴリオ聖歌』、時代のうつり変わりに伴い、展開される音楽の数々を披露しました。

ホフマンのハープ五重奏曲では、主人公の女の子が舞台上で絵を描くパフォーマンスを行い、『感情の即興』では様々な感情を物語と混ぜて音と踊りを即興で表現しました。



また、『ラフマニノフ/交響曲第2番第3楽章』では大変盛り上がりました。美術は、出演者の衣装を和紙で作り、1人1人のイメージに合わせて描かれた作品になっています。背景には1000mm×4000mmの作品『はじまり』を掲げて色彩豊かな舞台になりました。

時間を共有できる音楽と場に存在できる美術が融合して、様々な要素が加わったことで新感覚を味わえるコンサートになりました。当日は100名程の幅広い年齢層の方にお越し頂きました。小学生の男の子からは、「なんとも言えない、すごく良い。」という感想をいただきました。応援して下さった全ての方に感謝しています。ありがとうございました。



＜第19回 打のとき＞

事業名: 第19回愛知県立芸術大学打楽器専攻生コンサート
打のとき
報告者: 村瀬 穂乃花 (音楽学部 器楽専攻 管打楽器コース)

2020年2月20日、熱田文化小劇場にて、「第19回 愛知県立芸術大学打楽器専攻生コンサート 打のとき」を開催いたしました。今回は、1734年に作曲されたバッハの作品をマリンバ二重奏にアレンジしたものから、2010年に初演されたシアターピースまで、年代もジャンルも様々な、幅広いアンサンブルに挑戦しました。

年に一度開催しているこの演奏会は、演奏はもちろん企画・運営も学生が行います。あまり聴き馴染みのない打楽器アンサンブルを、来ていただける皆様に楽しんでいただける演奏会を目指し、一から作り上げていく過程は、私たちが演奏家として生きていくために必要なことを学べる重要な機会となっております。

最後になりますが、愛芸アシスト基金からのご支援をはじめ、多くの方のご支援のおかげで演奏会が成功しましたこと、心よりお礼申し上げます。誠にありがとうございました。今後とも、愛知県立芸術大学打楽器専攻生を宜しくお願い申し上げます。





あいちアール・ブリュット2019におけるコンサートの開催

昨年9月12日に「愛知県立芸術大学フレッシュアーティストによる木管五重奏の午後」を、翌13日に「愛知県立芸術大学フレッシュアーティストによる弦楽とピアノの夕べ」を名古屋市東文化小劇場で開きました。これは「あいちアール・ブリュット障害者アーツ展」の企画として、愛知県と愛知県立芸術大学の共催で行われたもので、コンサートを実施するにあたって愛芸アシスト基金を活用させていただきました。

初日の「愛知県立芸術大学フレッシュアーティストによる木管五重奏の午後」(写真上)は、第1回ヘルプマークコンサートとして企画しました。「外見からは分からなくても援助が必要な方のためのヘルプマーク。このマークをお持ちの方と支援する方々にクラシック音楽を楽しんでいただく」というコンセプトのもと、前年に引き続き、愛知県立芸術大学の在學生と卒業生で構成される木管五重奏団「アンサンブル・ヴィオレ」による演奏をお届けしました。

二日目の「愛知県立芸術大学フレッシュアーティストによる弦楽とピアノの夕べ」(写真右)は、「障害のある方、そして日ごろ支援や介助をがんばっているご家族や支援者の方に、芸術の夕べをお届けする」というコンセプトで企画しました。今回の公演のために、室内楽経験豊富な演奏者が集まって特別に編成された、弦楽四重奏にピアノを加えたグループにより、弦楽、ピアノのみのプログラムも交え、本格的



なクラシック音楽をお楽しみいただきました。

両日とも、コンサート終了後に演奏者がお客様のお見送りをしました。そこでは、握手や記念撮影も行われて、お客様にとっても喜んでいただけました。2日間とも来場されたお客様も多く、「ぜひ来年もやってください」と、たくさんのお声がけをいただきました。今後とも、愛芸アシスト基金からご援助いただければ幸いです。

井上 さつき(音楽学部 作曲専攻 音楽学コース 教授)

クレジットカードによる決済が可能になりました。

愛芸アシスト基金は、これまでの金融機関窓口での寄附のほか、クレジットカード決済による寄附ができるようになりました。

クレジットカードによる寄附を希望される場合は、下記のURLからお申し込みください。

<https://www.aichi-fam-u.ac.jp/others/other06/post-1.html>



※ご連絡可能なメールアドレスをご用意ください。

※本学のクレジットカードによる寄附は、F-REGI 寄付支払い(株式会社エフレジが運営する決済代行サービス)を使用しております。

ご寄附の手続き

1. はじめに、メールアドレスをご入力ください。
2. ご入力いただいたメールアドレス宛に、インターネット納付用URLのお知らせをお送りします。
メールを受け取られてから3時間以内にインターネット納付用URLを開いていただき、手続きをしてください。
3. 画面の指示に従い、必要事項を記入してください。最後に内容をご確認いただき、お申込み手続き完了となります。
4. 寄附金の払込み手続きをします。
5. 寄附は完了します。(最初にご入力 of メールアドレスに寄附完了確認メールを送信します。)
6. ご入金の確認ができ次第、領収書とお礼状をお送りいたします。
(寄附金の領収書は確定申告の際に必要なとなりますので、大切に保管してください。)